

適性検査Ⅰ

注 意

- 1 問題は三ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は五〇分で、終わりは午前九時四〇分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 問題用紙と解答用紙を提出してください。
- 5 受験番号と受験者氏名を問題用紙と解答用紙の決められたらんに記入してください。

受験番号	受験者氏名

目黒日本大学中学校

次の文章A・文章Bを読んで、あとの問題に答えなさい。

文章A

第二次世界大戦後に、日本の教育はそれ以前とは大きく変化し、現在に至るまでの道筋がつくられてきました。戦前の教育制度では、そもそも男女別学だった中等教育段階では「女子向きの教育」と「男子向きの教育」が明確に区別されていました。この「区別」は、男女が分かれて学ぶというのみならず、学ぶ内容や質が明らかに異なっていました。女子の教育課程には裁縫や家事が組み込まれ、その分、男子よりも外国語や数学の授業時間数が少なく、物理や化学は女子が学ぶ科目には含まれていませんでした。

さらに、戦前の高等教育に目を向けると、中等教育段階で女子と男子では学ぶ内容や質に格差があったために、女性が高等教育に進学する機会は極めて狭き門でした。女子用の高等教育機関として存在していたのは、女子高等師範学校と公私立の女子専門学校のみで、今という国公立の大学は、一部の例外を除き門戸を閉ざしていました。

（堀内かおる『10代のうちに考えておきたいジェンダーの話』による）

〈言葉の説明〉

女子高等師範学校……高等女学校などの女子教員を養成した旧制の国立専門学校。現在のお茶の水女子

大学・奈良女子大学の前身。

文章B

どのような子どもも同じような家庭で育ち、まったく同じ教育を受け、まったく同じ条件で、世の中の競争に向かっていくなどという完全な「機会の平等」は、私立学校や塾を禁止し、家庭環境にまで国が介入しなければ達成することはできない。その意味で、「機会の平等」は、すでに存在していないし、存在していたこともない。本章で紹介した多くのデータについても、「いまさら、驚くことはない」と思う読者の方も多いであろう。

人にはそれぞれもって生まれた素質があり、勉強のできる子もいれば、運動ができる子もいて、差があつて当然であると思われる人もいるかもしれない。社会の競争の中では、勉強ができなくても「不利」であるし、運動神経が鈍くとも「不利」、見た目がよいかそうでないかも結果を左右するであろう。家庭の経済状況や家庭環境も「不利」の一つであるのだから、そのような「不利」をもった子がいたとしても、かわいそうであるが、いたしかたがないという考えである。

筆者は、「いたしかたがない」という考えには賛成できない。その子が生まれ出る世帯の状況というのは、その子どもの資質の外の問題である。これは、一〇〇メートル走で最初からスタートラインを一〇メートル後ろに引かれているようなものである。これでは、たとえば、その子がどんなに速く走る資質をもっていたとしても、勝てる見込みがない。類まれな素質と意欲があれば、それでも一〇〇メートル走に勝つかもわからないが、その確率は小さい。

(阿部彩『子どもの貧困―日本の不公平を考える』による)

問題

文章Aは、「戦前の教育制度」・**文章B**は、「子どもの教育環境^{かんきやう}」について述べられた文章です。解答らん①には文章Aから読み取れることを「機会の平等」という言葉をもちいて、百字以内で分かりやすく書きましょう。解答らん②には、文章Bの中で述べられている筆者の平等に対する考え方を、「子どもの権利」という言葉をもちいて、百四十字以内で分かりやすく書きましょう。解答らん③には、文章A・Bを読んで、平等な社会を実現させるうえで重要だと考えることを、自分の体験や経験などを交えながら、四百字以上、五百字以内で分かりやすく書きましょう。

〈書き方のきまり〉

- 題名、名前は書かずに一行目から書き始めましょう。
- 書き出しや、段落^{だんらく}を変えるときは、一まず空けて書きましょう。ただし、解答らん①と②については、一まず目から書き始めましょう。
- 行を変えるのは段落を変えるときだけとします。会話などを入れる場合は、行を変えてはいけません。
- 読点^{とくてん}↓、句点↓。かぎ↓「などはそれぞれ一まずに書きましょう。ただし、句点とかぎ↓。」は、同じますに書きましょう。
- 読点や句点が行の一番上にきてしまうときは、前の行の一番最後の字といっしよに同じますに書きましょう。
- 書き出しや、段落を変えて空いたますも字数として数えます。
- 最後の段落の残りのますは、字数として数えません。
- 解答を直すときは、消しゴムで丁寧^{ていねい}に消してから書き直しましょう。

以下余白

